

第 1 6 1 回理事会議事録

1. 日時 : 2010 年 1 月 22 日 (金) 午後 6 時 30 分～8 時 30 分
2. 場所 : 四谷連盟会館 (新宿区四谷 1-13 虎ノ門実業会館四谷ビル 2F)
3. 出席者:【出席 15 名】藤田公郎、野崎武、木村修躬、宮国健次、
神代高弘、ロバート・ゲラー、島村京子、久富浩、平田眞、
堺順市、清水康裕、白鳥正喜、田多井菊雄、古田一雄、
増田道子
【委任状提出 3 名】寺本直志、逸見徹、森村俊介
【監事 1 名】 鳩山勝郎 (兼岩芳樹監事は欠席)
【事務局 3 名】 吉田正事務局長、大政哲人競技会事業部長、
高橋陽子普及事業部長
(理事現在数: 18 名、定足数 12 名、本人出席 15 名、委任状提出 3 名)
4. 議事の経過及び結果
藤田公郎会長を議長に、久富浩常任理事、清水康裕理事を議事録署名人に選任し、議題を逐一審議した。

第 1 号議案 第 160 回理事会議事録案の承認について
議事録案を承認した。

第 2 号議案 2010 年度予算案について
前回理事会に提出された予算からの修正案が提出され、平田企画委員長および事務局より変更分についての説明が行われた。
大政競技会事業部長から、連盟主催競技会の前年度優勝者に対する参加料免除を 1 日分から全額に修正したこと、Bridgemate 導入に伴う JTOS 改造費用の見積が未提出であるが仮に金額を設定したとの報告があった。
高橋普及事業部長から事業名を「地方への普及活動」を「地方活性化活動」に、「新入会員獲得活動」を「会員獲得および定着活動」に変更したことが報告された。地方で開催される初心者大会への参加のための交通費助成として地方活性化活動の旅費交通費を助成金に変更し金額を増額したこと、首都圏で開催される初心者大会への参加のための交通費助成として会員獲得および定着活動の助成金を増額したこと、ユース日本代表のチームポロシャツを支給するための費用を計上したこと、ウェブサイト更新の業者選定のためのプレゼンテーション費用を追加したことが報告された。

総計で支出増が 3,472,000 円となり、前回の約 90 万円の黒字予算から約 250 万円の赤字予算になったことが報告され、これを了承し、次回開催の理事会において 2010 年度予算最終案を決定することを確認した。

内部留保の減少については当面の支出増ではなく、世界選手権派遣費用の積み立てなど、企画を立てて内部留保の減少に取り組むべきとの意見があり、今後企画委員会においてその方策について検討することに決定した。

第 3 号議案 役員改選について

2010 年度役員改選書類が配布された。

理事会選出理事については、前回は選出せず、前々回は藤田会長と斉藤財務担当理事の 2 名を指名したとの報告があり、今回は予備選挙実施に備えて藤田会長が 3 名以内の理事を事前に指名し、メールベースで採決することに決定した。

理事並びに監事改選通知が会報に掲載されたが、掲載前に理事会に諮るべきとの意見があり、次回以降対応することになった。

第 4 号議案 会員総会における役員を選任議案の決議方法について

役員立候補者数が定数を超えた場合は現行の規定どおり予備選挙を実施し、定数以内の場合は全候補者を一括して決議する方式であるが、一括しての決議は内閣府のガイドラインでも望ましくないとされている。定数以内の場合の役員選任に関する決議を候補者毎に行う提案についてゲラー理事から説明があった。

議決を一括から個別への変更は総会での議決が必要かとの質問に対しては、規則変更はなく、総会での議案決議の方法の変更であるため、総会議長の議事整理権にあたり、理事会で決議を行えば問題ないとの回答があった。

基本的な考え方には賛同するが、賛否を表明しない場合の扱い等をさらに検討することに決定した。

第 5 号議案 正会員申込について

下記の 5 名の会友より提出された入会申請につき審議の結果承認した。

山田和彦、森山節子、小西慶久、高山雅陽、山後秀幸

新正会員の選挙権について質問があり、本日付で正会員資格を得たため選挙権、被選挙権とも有するとの回答があった。

第 6 号議案 各委員会及び事業部報告

1. 企画委員会

利益相反取引について吉田事務局長から、2008年12月1日に施行された一般社団法人及び一般財団法人に関する法律84条により、1) 理事の勤務する会社との取引、2) 理事本人との取引、3) 理事が代表であるブリッジセンターとの取引、以上は利益相反取引に該当し、社員総会の承認が必要となるとの報告があった。

本人の名誉のために、理事の勤務する会社との取引は違約金を払っても解消するべきとの藤田会長からの意見もあり、内規作成を含め利益相反取引について企画委員会において再検討することに決定した。

ブリッジセンター設立支援について、支援をする地域を指定するなど承認についての指針が必要などの意見があったが、地域指定はせず事務局の段階で指導を行った上、支援の可否を事務局、会長、理事会の三段階でチェックするとの説明があった。検討の結果、連盟として五ヶ年計画に沿って支援の重点地域を決める事がある事を会報原稿に記載することとし、メールで理事に修正案を送付し、承認後2月末発行の会報に掲載する事に決定した。

宮内宏氏に依頼することに決定した個人情報保護についての内規作成について、鳩山監事より法律関係については顧問弁護士に依頼するべきであるとの発言があった。また宮国副会長から宮内氏を連盟の顧問弁護士として契約する提案があり、この件を含めて次回企画委員会において検討することに決定した。

2. 九州プロジェクト

木村副会長より1月19日福岡市長との面談、2月22日に予定されている福岡委員会開催および支部活動についての報告があった。

3. 代表選抜委員会

堺委員長よりPABFオープンチームNPCとして林伸之氏を指名するとの提案があり、これを承認した。

4. ルール委員会

古田委員長より1月18日開催の委員会議事録について、ブリッジの規則第27条（不十分なビッド）に関して、今年度中に国内の統一見解を作成するとの報告があった。

神代理事から規則の解釈について第27条以外にも統一見解を示すべき条項があるとの指摘があり、今後対応することになった。

5. 普及事業部

高橋普及事業部長よりユースの第1次選考を終了し、3月に代表を決定すること、NECブリッジフェスティバルの体験教室に囲碁、チェス、チェッカー、シャンチーが参加すること、シニアの比率が2002年の10.1%か

ら 25.8%になっているとの報告があった。

6. 競技会事業部

大政事業部長より Bridgemate 導入計画、事業部活動状況及びシニアライフマスター7名、ライフマスター8名の資格取得者の報告があった。

7. 国際交流事業部

吉田事業部長から NEC ブリッジフェスティバル国外招待チーム 12 チーム、国外一般参加 3 チーム、昨年のワールドユースコンGRESSに優勝した日本-チェコ合同チームを含め、参加チーム数が 48 チームになったとの報告があった。

第 5 号議案 その他の議案

1. ハイチ大地震義援金について

吉田事務局長よりハイチ大地震への寄付についての提案があり、朝日新聞社および読売新聞社を通して 50 万円ずつ、計 100 万円の寄付を行うことに決定した。

2. 次回開催日について

次回は 3 月 26 日（金）午後 6 時 30 分より開催する。

次々回は 4 月 23 日（金）、会員総会は 5 月 29 日（土）に開催する。

当日配布書類：第 5 号議案「正会員申込について」

第 6 号議案「企画委員会議事録案」、「日本経済社との雑誌広告取引について」、「広報部会議事録」、「ブリッジセンター設立支援公募について」、「九州プロジェクト報告」、「第 47 回 PABF オープン NPC の指名について」、「ルール委員会議事録」
「競技会事業部報告」

平成 22 年 1 月 22 日（2010 年）

社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

第 161 回理事会

議 長

議事録署名人

議事録署名人